

911.3

ソ

上



樂々群衆向集序

古人之志也。一曰乃主^{スレ}也。

か。と。安をま。心。又。あ。

況。其。情。好。存。存。也。形。吉。乃。境。を。わ。

ら。あ。ぬ。ゆ。も。に。謙。は。思。ひ。入。る。好。好。き。と。案。

を。の。ほ。の。ま。た。る。會。一。年。多。く。各。

先。師。貞。代。家。ハ。わ。う。う。一。時。わ。り。音。子。よ。

ま。と。う。て。一。ま。ち。を。も。と。む。ま。と。ん。ん。



聚々群々句集序

古人之於文也。一有乃主^{スレ}於之。

かゝると。安をまゝに成る。又音もあれを

流^{トク}。其情も存存をまゝ。新古の境をわり

らぬ。ゆゑに。謙は思ひ入る。其情もあれを

流^{トク}。其情も存存をまゝ。新古の境をわり

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in eight horizontal lines within a rectangular border. The characters are highly stylized and interconnected.

Handwritten text in a cursive script, similar to the top page. The text is arranged in ten horizontal lines within a rectangular border. The characters are highly stylized and interconnected.

書法之精妙在於筆墨之運用。其法有八：一曰筆法，二曰墨法，三曰章法，四曰字法，五曰氣法，六曰神法，七曰韻法，八曰法外之法。此八者，皆不可不察也。

夫書法之精妙，在於筆墨之運用。其法有八：一曰筆法，二曰墨法，三曰章法，四曰字法，五曰氣法，六曰神法，七曰韻法，八曰法外之法。此八者，皆不可不察也。

夫書法之精妙，在於筆墨之運用。其法有八：一曰筆法，二曰墨法，三曰章法，四曰字法，五曰氣法，六曰神法，七曰韻法，八曰法外之法。此八者，皆不可不察也。

此法之精妙，在於筆墨之運用。其法有八：一曰筆法，二曰墨法，三曰章法，四曰字法，五曰氣法，六曰神法，七曰韻法，八曰法外之法。此八者，皆不可不察也。

書付文刻を以てありつめ^{アツサ}様とちりてあはれむす。
其れもよみだ^クく業^ク群^ク教^ク有^ク業^クと^クい^ク。
其れを業^ク境^ク於^ク人^クの^ク傳^クく^ク。此^ク門^クの^ク誰^クの^ク道^クよ^クお^クり^ク。
る。阿^ク唐^ク派^ク世^クは^ク廣^クめ^ク人^クと^ク思^クふ^ク於^クこ^クあ^クり^クま^クる^クふ^ク。
先^ク師^ク代^ク々^ク乃^ク業^ク成^ク一^ク時^クを^ク於^ク湯^ク急^ク於^クる^ク。
る。滿^ク洲^ク若^ク者^ク社^ク。此^ク一^ク帙^クを^クな^ク紙^クを^クい^クふ^ク。予^クを^ク。
あ^クふ^クす^クめ^クる^ク中^ク於^ク久^ク一^クく^クお^クを^クく^ク信^ク傳^クる^ク。
る^ク。あ^クが^ク此^ク門^クの^ク文^ク采^ク乃^クた^クま^クく^ク整^ク形^クむ^クる^ク。

か、新^ク了^クの^ク業^ク於^ク行^ク於^クる^ク。吾^ク教^クの^ク思^ク海^ク乃^ク。
あ^クく^ク大^クた^クり^クを^クを^クよ^クふ^ク。一^ク日^クも^クわ^クき^クと^クい^クふ^ク。
那^クも^クれ^ク。今^クは^ク教^ク有^ク業^クを^クも^ク。想^クた^ク一^クを^クま^クり^ク。
か^クく^ク一^クの^ク。極^クの^クま^クく^ク。い^クひ^クこ^クお^クい^クと^クも^クち^クを^クえ^ク。
き^クす。業^ク乃^ク業^ク後^ク末^クを^クま^クげ^クり^ク。世^クこ^クを^クを^クや^ク。
い^クへ^クむ。あ^クも^ク亦^ク點^ク所^ク。い^クへ^クま^ク。細^クを^クく^ク。
と^ク一^ク句^ク於^ク旁^クを^クを^クま^クき^クす。一^ク業^クの^クま^クと^クた^クる^ク。い^クふ^ク。
非^ク思^ク海^ク万^ク一^クむ^クら^クひ^クを^クい^クふ^クや^クと^ク。

この心乃ちわらわをせむ。昔はさきさき
と教へしと志すの如し

定正之戊辰年

東都 寄庵有徳序

不果

生

有徳

桑桑畔發句集凡例

一 先師貞翁自作の九集及餘稿。又法門人の
あつめたる世傳もの紙刺て。撰むるを正し。し
かりに之を編む。編すに木ありぬ。又佳遊樓の
精選本をふをありて。参へ考ふ。改寫をせしむ
三ふび。斯うして。移紙。祝すといふ。其。僕。者。使。酒。の
才。恐らくハ。師乃。海。新。よ。を。ひ。て。他。僂。き。る
か。ら。ぎ。し。ま。を。

一 他集ふし。と。乃。為。體。每。題。辭。を。あ。く。矣。回。あ。る
ものハ。余。箱。の中。に。記。す。もの。故。以。て。記。す。

- 一 他集に中叙句被裁法と今一句を添
- 一 或る二句之句被裁法より風姿の變化を
よりなりと云ふ被裁法をなすとすなり
- 一 歲旦集言若くはけり由縁あるは他集の
有。凡そ叙語被裁法といふは伊の語
に於てのみ。如何なる事をも亦一を添
一を添す。或て之は形見を加へ
一 四書聖訓の中意より雜語を寄して記述
ものあり。巻之類被裁法に付す。此は
神祇釋教志述懐著るるも亦皆此類の

中よ限る。卷末に雜三部を三法といふは
奉納哀傷送別若別眞の四の法奉りしもの
此類の徴は予義見^後を。向し其寫本より
金まのえ。此書を用ひしを録するなり。
又此類より送別若別眞の四の法奉りしもの
多し。此に依る

- 一 凡そ此類の寫本より送別若別眞の四の法奉りしもの
多し。此に依る
- 一 凡そ此類の寫本より送別若別眞の四の法奉りしもの
多し。此に依る

一 他集此中叔句以裁法とへも今一句を添へ
 一 あるハ二句三句はも守そのハも風姿の變化する
 一 あり。は乃うごごひに裁法もいもさうさくたあり

一 歳旦兼言若句おけく由縁あるましく他集その
 一 有。これよ叔語はほ新といへとも伴のぐさささ
 一 はやすのうす。あくのうさきそのも亦一をさわりて

一 をさうす。あへてう終る眩見オクケンを加へ頂
 一 四季題流の句中きとより難題又寄てはくさる
 一 ものあり。悉コトククその類は句前よ付もあ。はさうす
 一 神祇釋教志述懐著乃句も亦皆此類乃

中又混入。卷末又難之部を立法といへともた
 一 奉納哀傷送別其賀の四のうは奉アゲてい
 一 此編の徴さうす義見ニ後あ。何れそ其可類よハ
 一 今きそのを。を季を用ゆるま意味少るまそのハ
 一 又け新よま。五合寸山田の橋相坂乃浦水二句。若イ
 一 多くあにハその送別の類よあぶ。一といへとも
 一 こと一余準之

一 凡句仲乃片修カタハラ其字以書キかきそのハ。假名
 一 一 凡句仲乃片修カタハラ其字以書キかきそのハ。假名

何んを以て紛々たるものか。あへては糝々
贅ゼイきキ次

一四季景物は序次の毛吹草小町踊東日記候
虚栗あゝ聖共袋猿筆炭俵泊船集
はささとの等乃古書歌品多しそのを参へ
りりて錯綜ソウゾウ天あれをつらぬ各共句の頂イタダキは
冠カウ冠カウ冠カウ又その一景物の中かゝカ標ハシラす人き
その水色梅雨中柳鞆花樹陰蟬蓋上露
ちど旨といへる意各都の中希ヒは坊作何れぞ
上層ウラタはささの細目をかき守モ雑教ザクキョウとむとく

二れはき守

一五日菖蒲。花菖蒲。九日菊。菊花。句格おとる
といへる毛。都所のまげきを伊とひく。共二節の
由は海へ入

一雑春雜夏雜秋雜冬ハひくすら景物を以て
くさばるるものと。按ちるがごとくその類々
引用ゆる集名にけく真名假名以て行カコナふを
今も長きをいひて、都ツと漢字守モき。ハ名義の
簡略たる。速スミヤカは乃名守ナノナモリをむる序
一雜之類を立はと伊人をも。前よりゆる神尺を

等の諸歌をきくゆへに。唯音納哀備送別等の類の
 歌を置。きくゆへに。此の物也。甚なり。か。何ん
 し。や。ま。か。り。な。き。心。懐。ひ。よ。り。後。に。心。の。正。し。一
 き。や。あ。く。ま。の。程。を。行。ば。あ。び。性。情。の。道。の
 要。領。を。く。あ。く。に。此。類。を。表。す。と。よ。り。あ。ぬ。
 き。あ。く。ま。の。吾。の。實。を。き。く。受。る。け。編。の。花
 ふ。射。き。き。

一一編句數四季之部 九百二十二句。雜之約百六十
 八句。都テ千九十句

凡例終

桑桑畔發句集引用集目 随其表出而
不拘次第

晋子句牒 花見車 睡足句帳

沾洲橋南 袖は乃 誰袖

濱真 蝶の使 氷花雌雄風

春のかり 波津舞万 二百韻

安良鋤 汐越 及故拾遺

後大名 志又 錦のまれ

花舫 桃乃齡 沾徳文蓬萊

春乃旅 春の序 卯花月

友為葉 金龍山 艶士分外

更衣

保登 = 歩湏

雲の響

嘉古満久良

三山雅集

二の竹

染明衣

のわり鶴

手習

栗むき

園女菊砵塵

十二月箱

いつを夏

柳ごり

二子山

花於婦古

鏡の裏

誹太郎

東潮渡鳥

晋子萩の露

略西湖

無事有

月筏

笏の舞

延命冠者

晋子類柑子

耕作

あぶららひ

籬ももと

古東志左起

天袴

錦綉林

花林端

俳度曲

猿千鳥

大神

超波落葉合

百夜草

暮四集

江戸筏前集

雪模様

わところ子

一日千句

鶴の歩

父の恩

梅の時

野明王

沾徳及古談

葉の平

多計乃由女

三の水

齋非時

夢乃花

素鶯武止呂

光明井

卯花衣

無隈

白字録

山の皆

錦の山路

更衣

保登ニ歩湏

雲の響

嘉古満久良

三山雅集

二の竹

染明衣

のわり鶴

手習

栗むき

園女菊カ塵

十二月箱

いつを夏

柳ウり

二子山

花於婦古

鏡の裏

誹太郎

東潮渡鳥

晋子萩の露

略西湖

無事有

月筏

笏の舞

延命冠者

晋子類柑子

耕作ノ神

あぶらららひ

籬らもと

古東志左起

天袴

錦綉林

花林端

俳度曲

猿千鳥

大榭

超波落葉合

百夜草

暮四集

江戸筏前集

雪模様

わところ子

一日千句

鶴の歩

父の恩

梅の時

野明王

沾徳反古談

葉の翠

多計乃由女

三の水

齋非時

夢乃花

素鶯武止呂

光明井

卯花衣

無隈

秋の果

残る菊

紫微花

一秋談

跡藻塩

廣葉

風の上

小屏風

氷面鏡

夜櫻

いせ土産

種瓢

清流雜筑波

千年艸

常磐山

園女雀の杖

龜藏賀

比良津二見

居鴈

桑翁所作之十集

一番雞

二番雞

七泉

春夏賦

他村

其柱

代ニ蠶冊五

丙午月次集冊九

梨の園冊四

初懷紙前後集

癸丑甲寅共二冊

以上十品之中二番雞

今不傳雖非所引用然欲令人知此數目故舉

之猶委于其砧行狀記

歲旦合集

甲辰乙巳丙午丁未戊申己酉庚戌辛亥壬子凡九年試筆記

續蛙合

十集餘稿桑ニ畔門人記

右百十八品者所載其句者也題及端書等之

辭所出不在此限

引用集目終

桑桑畔發句集總目錄

四季

神祇 釋教 戀 無常 述懷 人名

名所 名物 羈旅 交遊 古歌 古語

謳詞 畫圖 贊 銘 額 聯

即興

雜

奉納 哀傷 送別 慶賀

摠目終

四季題類目次

卷上

春

改正 弓始 寶引 初寅 鳥追

人日 削掛 鶯 梅 柳

松花 春雪 雪解 佐保姬 藪入

御忌 猫戀 白魚 野老 路臺

獨活 海苔 春雨 初午 鳳巾

燕 雲雀 雉子 雀子 蝶

蛙 椿 苗代 土筆 大根花

桑桑畔發句集總目錄

四季

神祇 釋教 戀 無常 述懷 人名

名所 名物 羈旅 交遊 古歌 古語

謳詞 畫圖 贊 銘 額 聯

即興

雜

奉納 哀傷 送別 慶賀

摠目終

四季題類目次

卷上

春

改正 弓始 寶引 初寅 鳥追

人日 削掛 鶯 梅 柳

松花 春雪 雪解 佐保姬 藪入

御忌 猫戀 白魚 野老 路臺

獨活 海苔 春雨 初午 鳳巾

涅槃會

花

櫻

桃

雛

雞合

汐干

別霜

蠶

櫻網

鱒

筋

堇

山吹

躑躅

藤

雜春

夏

更衣

卯花

新樹

茂

若葉

牡丹

杜若

子規

鳴鳩

灌佛

鯉

蝙蝠

葵祭

罌粟花

花袖

筍

若楓

櫻實

厚朴花

椶櫚花

菖蒲

競馬

幟

冑

印地打

柏餅

帷子

五月雨

入梅

今年竹

早苗

百合

紫陽花

藻花

藻荇

鶉

水雞

螢

蚊

蝸牛

鮎

小鱖

鮓

麥

茄子

越瓜

神輿洗

冰室

蟬

蠅

祇園會

蓮

晝顏

夕顏

澤瀉

絲瓜花

凌霄花

合歡花

水鳥巢

田艸取

麻

藺苳

瓜

角豆

夏艸

暑

納涼

清水掬

扇

團扇

掛香

日傘

一夜酒

心太

虫干

涅槃會 花 櫻 桃 雛

雞合 汐干 別霜 蠶 櫻綢

鱒 筋 堇 山吹 躑躅

藤 雜春

夏

更衣 卯花 新樹 茂 若葉

牡丹 杜若 子規 鴉鳩 灌佛

鯉 蝙蝠 葵祭 罌粟花 花袖

筍 若楓 櫻實 厚朴花 椶櫚花

菖蒲 競馬 幟 冑 印地打

柏餅 帷子 五月雨 入梅 今年竹

早苗 百合 紫陽花 藻花 藻荇

鶉 水雞 螢 蚊 蝸牛

鮎 小鱖 鮓 麥 茄子

越瓜 神輿洗 冰室 蟬 蠅

祇園會 蓮 晝顏 夕顏 澤瀉

絲瓜花 凌霄花 合歡花 水鳥巢 田艸取

麻 藺荊 瓜 角豆 夏艸

暑 納涼 清水掬 扇 團扇

白雨

御被

雜夏

卷下

秋

七夕

薜

霧

十日詣

靈祭

燈籠

生身魂

刺鯖

菽

蘭

芭蕉

蜻蛉

踊

西瓜

刀豆

角力

露

八朔

雁

鳴

鶉

月

放生會

十六夜

菽

尾花

花野

薦

雞頭

稻

案山子

蕎麥花

種茄子

鬼燈

南瓜

絲瓜

天瓜

瓠

葡萄

柿

梅嫌

石榴

茸

鵲鴿

鹿

鮭

九日菊

後月

新酒

青蜜柑

南天實

紅葉

秋暮

雜秋

冬

神旅

時雨

木枯

爐開

殘菊

寒菊

石落花

掃花

茶花

山茶花

枇杷花

落葉

枯芦

麥蒔

大根引

玄猪

御影講

霜

霰

冰

夷講

火鉢

火燧

蒲團

頭巾

白雨

御祓

雜夏

卷下

秋

七夕

薜

霧

千日詣

靈祭

燈籠

生身魂

刺鯖

菽

蘭

芭蕉

蜻蛉

踊

西瓜

刀豆

角力

露

八朔

雁

鳴

鶉

月

放生會

十六夜

菽

尾花

花野

薦

雞頭

稻

案山子

蕎麥花

種茄子

鬼燈

南瓜

絲瓜

天瓜

瓠

葡萄

柿

梅嫌

石榴

茸

鵲鴿

鹿

鮭

九日菊

後月

新酒

青蜜柑

南天實

紅葉

秋暮

雜秋

冬

神旅

時雨

木枯

爐開

殘菊

寒菊

石落花

掃花

茶花

山茶花

枇杷花

落葉

枯芦

麥蒔

大根引

玄猪

御影講

霜

霰

冰

煤掃 歳暮

目次終

桑桑畔發句集卷之上

北梅市富岡有佐

新花林皐月平砂

編輯

○春之部

改正

重_子白_襟

花見車

十集餘稿

同

同

同

毎の先 今日我孫と夕

蓬菜と菓子此名よせや奥座敷

蓬菜や初めの枝ふときり鳥

蓬菜や肥後版石と龜の甲

元日や濁歩起ほとくちり柱

えりや清き八何と加きり葉

桑桑畔

上

春部

一

| | | | | |
|-----|-----|----|-----|-----|
| 千鳥 | 鴛鴦 | 網代 | 海鼠 | 神迎 |
| 顔見勢 | 水仙 | 寒梅 | 寒牡丹 | 雪 |
| 冬至 | 吹葦祭 | 暖鳥 | 鉢扣 | 蕪 |
| 葱 | 鮑 | 牡蠣 | 寒 | 寒月 |
| 寒色 | 寒念佛 | 雜冬 | 年忘 | 節季候 |
| 煤掃 | 歲暮 | | | |

目次終

桑桑畔發句集卷之上

北梅市富岡有佐

新花林皐月平砂

編輯

○春之部

改正

厚白襟

毎の先 今日我拜之夕

花見車

蓬菜と菓子此名よせや奥座敷

十集餘稿

蓬菜や初のぬ枝ふときり鴛

同

蓬菜や肥後殿石と龜の甲

同

元日や渦歩起ほとくち柱

同

えりや清きハ何と加きり葉

元日やんごうねきハ一各所
 酒呵^{シガ}不実が酌六つ家の表
 和々^ニや鶴も^キ実^ニ取^ル乃^リ鐘
 橙^ニの産ハ定^リぬおとこやま
 明けん^明とく雀の歩^{アユミ} 忽^ニ想^ハふ
 や^リ羽子や^ハ信^ニ跡^ヲら^ハ守^ル君^ノあ
 糸^ヲ系^ルや^ハ門^ヲと^ハお^ほき^ぬ鶉^ノ栗
 手^ヲ立^テや^ハ蛙^ノ子^ヲと^ハ全^ク此^ノく^レ石
 年光満金龜山
 三飾の松乃島根や二王門
 乙巳記

代三蚕
甲辰記

丙午記

誰のある万戸のを染み知難哉

武湯佃島又住吉の神社有武尊を
 納めま^シ侍^ルり^テ多^ク年^ヲ此^ノか^ドり^ノ松^モ
 我と相生なるや^ハ杉^ハ切^レ赤^ク乃^リ葵^久

丁未記

え日や先^ッ住吉乃 雀お^起き

戊申記

わの水や起^テ涼^シし^テ星^ノ月^ノ夜

々年の秋伊勢御遷宮ちまを

己酉記

礎^ニ成^リ告^グち^ハや^ハい^ハ文字^ノ國^ノの^春

酒匂玉川のきりくちなる流ハ名つよき

庚戌記

斯^クう^クめ^ノの^陸を^ちり^ぬ
かく^ル尺^寸毎^々又^ハ襲^ヒと^ハ民^ノ乃^リ春

一衆の徳成あ^ハハ^ハ一^ハ終^ス

月 元日やろとくねさハ下名所

月 酒呵シカを突ツが酌六つ家の表

月 和ワもや鶴もツル安ヤス取トル的テキ乃鐘

月 橙ダイダイの産ウチハ定サ了スぬおとこやま

月 わけんとく雀ツグミの歩ツミ 忽ト想ク多ク

月 や了ヤス羽子ハネコや心ココロ後ノチ跡アトら守モ君キミのノ也ヤ

代ニ蚕イハ 翁オウ系ケイ系ケイや門カドをシおほホきぬ鶴ツルの粟アワ

甲辰記 手テ立タやヤ蛙カエルの子コをシ空カラにシきキるル石イシ

年光満トシノヒカリ金龜山キカメヤマ

乙巳記 三飾ミカズキの松マツ乃島根ノシマネや二王門ニオウカド

辛亥記

壬子記

癸丑懷帝

甲卯懷帝

余稿

池上とさきハるゆらん下るの妻

何れもとて段と我親粒考枕

あゝあや布も春ウズツク水なまり

木綿着ば万る川乃より聖初履

鞍馬山

毘沙門の伎ハあがり花の春

大黒賛

刻之もて宇治の三姉君水ある

若くあや六月ハ買水ある

舞臺てハ存ある白粉弓ちりめ

弓始
日

題菊王丸

室引やと乃あるを膝に

題鞍馬木芽漬

初寅のその梢とと去去候

る追や天氣を配る程ひる

めとるり袖ハ葛西の若菜摘

去とるる腰不走何るり

淡風や唐土天竺而代若菜

凡とるぬ心を増るる葉若貴

者かけて堰吹きるなるか

寶引
日

初寅
日

鳥追
日

人日
日

日

日

日

日

月 親船乃初きさくしを宵 蘇
白露明て露み梢のふれをけ

梅南 梅乃木此棟ハ辱くそそ芥薺

袖津万 空^問くも玉茶屋索ぞわあ山な

代々香 枝材ハすくもくも雪 蘇

余福 七種や松をちあひて大坂波

題辨慶

月 姐板お七^降乃^中物ほろけ

月 同根のゐとも^降さくさく^計り

鶯 鶯や菴菴買^計ぶきまのりま

月 鶯やあらし^計の亦お起

月 うらみさやあ雞の末て^計ぬ戸を

月 字久おほ^計声と^計歌の翁根竹

月 鶯^計く^計山ハ音羽の^計連^計物日

月 鶯や不破の閑守^計そ^計う^計聲

月 鶯^計か^計宿乃^計城ハ^計連^計く^計る^計く

月 鶯^計よ^計鶯^計ら^計ぬ^計を^計り^計く^計時^計計^計が

張果郎贊

月 鶯^計や^計同^計一^計出^計る^計の^計明^計く^計ま^計き

題敦盛

梅

舟比園

日 宵や笛ハぼよよのさめと那

余稿

あとの草ハ嚙てそ志趣を梅影を

日

風可片は乃程ハもづす毒のちを

日

水門みハ不指出ハ次々ハ寸梅乃志

日

鼻をこぢ挾むる眼鏡やめ花

日

梅の花香こそ津の玉紫梅一

水邊歌

日

むめうや多門舟を平日和

日

香も無事控雨ハ印の別梅乃志

日

梅の香をあつて園とハ等舞何

日

梅枝をよるる人ハ故をれまハ

日

梅乃髪軽く吹す城所知ハ

患對口瘡

日

痛む秋ハく周のま一梅のむ

題三番叟

日

やめの香ハニツハ四ハ切ハ寸トヒ

梅ニ三日月畫贊

日

長刀と刃ハ半ハめむめハ自

卧龍梅

同

符

子

八

子

子

子

子

子

子

子

子

采
七
因

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

柳

代々鼻毛ハ赤くも清くハ梅の花

日 未開紅きのまふりハ豆苗

惟袖 紙登川梅の花ハすくハり

涙貢 いせ海老の髪を目とと梅の花

梨の園 じ免ん也ん食の窓を南を向

男初懐紙 古りりたくと船を梅のを

日 酒ハ濃ク油と苟ぐめむめめを

蝶の使 不通きく藤も乃の柳哉

余稿 逸上わけのそろ里と下かり柳哉

日 人ハ酒ハ柳ハ風乃怒りを

日 教育ハ投入柳 夜乃 啓

雨中柳

日 有ちて 狂柳や大磯磯

西圖

日 雨やせよ柳もと落籠籠屋

西行西贊

日 有風み平次ハ合和と柳哉

大野 出舟の便を居て十三里の所

春夏賦 舟の矢の以時行けハ川柳

彫工一宿扱を以日寸をれといふ也

柳

代香

鼻毛よ、鼻毛も清く、梅の花

目

未開紅き、ふり、小豆、畠

惟袖

紙を、川、梅の花よ、す、し、り

後貢

いせ、海老の、髪を、目もと、梅の花

梨の園

む、免、咲、也、念、の、窓、を、南、向

男、犯、儀、儀

古、り、り、た、く、と、船、を、梅、の、花

目

酒、小、濃、く、油、と、ち、ぢ、め、む、め、ち、を

蝶、の、使

不、通、き、く、條、も、乃、の、柳、花

余、稿

絶、わ、け、の、そ、ろ、里、^上、_下、お、り、^下、柳、花

目

人、ハ、酒、柳、ハ、風、乃、怒、り、^上、_下

甲辰右帳

君の心ニカケ 鞅又浅をさし 柳

勢州追分

代蚕

傍路の根つけは夕顔柳哉

梨の園

琴と反る柳の糸は組まぬ

余稻

す〇りよー直ハきみの氣松の花

春雪

一生預ねいとさしは春の雪

世乃中静あま

蓮谷亭

雪の喜序品第一 四海波

雪解

白粉の箱根仰向のくさくさ

たまとのくさくさ

佐保姫

佐保姫の睡のま萌川乃幅

藪入

也よ入やめてなく日水車

御忌

御忌事一第乃音ハ松の陰

猫戀

出て三日人あらしふ猫は恋

余稻

沼を出一あわりの猫の恋水

日

内所居ぬ恋もとせ猫思あらし

西行西贊

日

恋せは八飼てよあや銀の猫

白魚 代蚕

白魚は只今青地ニほれ松

候貢

あらし魚を珠あらし水をあらし

余稿

白魚や香車色タケ狂き春海

雌雄風

白魚小里一とち乃流き哉

野老

余稿

吟声や閑居ふかあふ聖老矣

題江口

日

ユテ 茹壁をうりのやうりを折交り

落臺

日

松の紫かこがきてゆきぐ蔭れ臺

代々

まゝ室一襟立衣ふきのの〜

獨活

余稿

江戸獨活ハ白よき〜何るあふ外

海苔

日

襟す。袖の浦海苔を付そ

日

滝海苔や〜付てもあ〜月の影

春雨

日

桐乃蓋ゆよまきる款か〜

初午

代々

初午や伊勢の穴〜こくハ此天氣

日

初午や梢ふ〜乃ふき合セ

雨の〜〜龍治を多〜れハ
〜ハハ〜〜の〜〜

波尊保

〜の〜宿宵月ハ鳴海滔

波尊保

初午や華ふハの〜ぬ 時馬

余稿

初午や美ハ小紋〜きり遠ハ

日

初午や産月をき木〜櫻 ヒキカハル

日

初午や産月をき木〜櫻

日

初午や歩行の茶〜〜

日
初午や佐四の繩をこころんかとの
碁と隅そ屋敷く 詠いちり山

揚屋町より先乃 羅を 行きたて

鳳巾

余稿

裏茶屋へ寄く 詠希いゝのりり

燕

日

つゝゝゝや帆のふとこころを向やうり

日本橋より南をきき一歩

月
藝や八町片く 詠く一此る

代々蚕
片をくくくや淡路の波をつまき喰

小金原

雲雀

余稿

幾日かの系ハちるつき舞をり

日 初午やき^想へて裏り二十間
 二百句 初午や古俵一日とりの香
 余坊 初午やとと色紙屋の火打石
 日 初午や唐茶とりの隣古
 日 初午や舞へ屋とぬ下屋敷
 日 初午や宿ハ袴とまきり出
 日 初午やまきごこの針ハ小土器
 日 初午はかろろの屏風おそり
 日 初午はととと休とよあると酒
 遊三圍

日 初午や佐田の繩子とくんととの
 梨園 碁と隅そ屋敷くついでり山
 揚屋町より先乃男と行とて
 鳳巾 裏茶屋へ寄く紙幣いのり力
 燕 日 つととと帆のふととらと回やり
 日本橋より南とととと
 日 蕨や八町片とく徳とととと
 代と蚕 片とととと淡海の波をつまみ喰
 小金原
 雲雀 余坊 幾日たの原ハちつと舞ととと

雉子 日

雉子鳴やむしー池上椽乃下

雀子 日

雀子けびききききを 鼓うれ

蝶 日

酔と目と猫の目うちる 如蝶非

日

面うりや^哀も進切蝶乃位而

梨の固

鈴を横うー鈴けくこころ

蛙 續蛙合

水哉^滌寸砂不片くも小種うも

日

鳥乃ちて吹矢ふらする 蛙如れ

日

鐘遠く埋て而乃うも月非

日

而まれを目てうけ流き鐘哉

日

傘張乃ちり合ふたる 如るる

日

日和れや又山をとくハ又而陸

日

梅乃一泣て多而れうも月非

日

関^著く内か少なく陸う都

日

鳥初聖を焚つけ比のかさう哉

日

舟うく^物のよを身陸うよ

日

長明のゆる夜ハいた小田 陸

日

山城ハ出う川てお侍うも月非

日

人ま集うつ^の山を連^陸

日

あふの片不^陸猿伏乃陸哉

日

友橋^不胸ハ片之^陸如うも月非

日 鬢髮却洗へハ濁子陸ノ如
 日 州莖小ちるぬきを去るぬ陸
 日 身よよむ言て吾好かちり
 日 小田陸嶽の光を適きり
 日 墓ヒキカヒ々少を産屋乃楯下
 椿 雷も落ぬふりきき楳
 苗代 安良惣 苗代ダシヤ皆 醉サケ
 土筆 代イ蚕 背ヲ降るが供觸片く
 余務 茸狩乃歩兵あるらん土筆
 日 物とめてあかコらんも土筆原

日 土筆音う川を廣する園乃あ
 日 陸人の聖法くく一是も楳
 日 聖嶺よ小弓小矢を法く
 日 佳遊樓法あるの需を画と題出す
 日 一つのるに氣めけ乃男花大根
 日 涅槃と想ひあふ帯也足の
 日 釋迦孫より人の前う下を
 日 船頭ハ沖をそ去れ花曇
 日 打方刀城迹をそ在ハ木陰外
 日 祭の園 吾部々告終や急乃明鳥

大根花 代イ蚕
 涅槃會 共柱
 花 代イ蚕

日 必よ来て武家の幕をき初め
 余栢 我輩の鶴也惣目やまかあり
 日 ごととあ^魚う鹿又とを新花見か
 日 船ちうは二日の片^疲れ志兄客
 日 兼兄花^油の細笠こそあつ^殿てい
 日 盃ハま^{佳美}くくてい^{佳美}花乃下
 日 宗備ハ酒饅既^然ちう^然蓮
 日 折花ハ石ぬあ^然ちう^然春よハ
 日 華ちうは^然折^然ハ^然念五升^然摺
 日 尺雲てや^然ち^然く^然甚乃^然種^然ち^然

日 湖苔を出て馬鹿を花乃あ^然れ^然世ハ
 日 四方の花ま^然もつ^然よ^然き^然ハ芝居^然外
 代^三蚕 洛清水寺随缘の折^然り^然あ^然ひ^然て
 日 膝^然の^然寸^然や^然二十^然万^然日^然を^然れ^然さ^然う^然り
 余栢 東叡山^然中^然あ^然ら^然く^然兼^然乃^然集^然ま^然
 おく^然ま^然い^然る^然を^然い^然む
 日 兼^然ハ^然皆^然ま^然ぢ^然う^然松^然系^然池^然ハ^然皺^然
 三圍
 日 津^然と^然田^然乃^然鏡^然う^然う^然庵^然や^然花^然の^然空
 魚籃^然觀^然音^然堂
 日 段^然く^然ふ^然折^然て^然も^然花^然ハ^然零^然の^然南^然

遊大井村西光寺

目 是もよゝ髪小虎杖枝了杖

邀東叡山二句

目 後の鐘はあらひこりの雪

目 了の暮れ花や花の谷中口

硯銘

目 高島や一風ナギもあ乃夕系

野駒圖

目 舟乃子れ蹄ヒタをうせ花の山

顯鵜伺謠

櫻

目 松をしろや此川浪まちつと花

目 香久山乃竹を出て花の影

目 さく花の息をらもや鏡山

及故拾遺 龍宮よ花の鐘ハ奈と

後大名 春しとあり日和となるや初楳

其柱 椽側乃帯を也多や山さく

花見 際さくの白檜凄ま山依ぬら

余稿 亭に向とハ念点あらうのやま楳

寫情

目 ちと時ハあいあくてよ山櫻

日
いふ松まけ^聞る雪乃山楳

日
形いづら鼻緒も切き屋戸楳

日
朝あてを^摩次^摩に由代^摩山楳

日
山さくく木ぞめ草ぞめ草殿取

代蚕
山さくく二襦きせ^ハまきま^ハく寸

余括
短慮不成功^ヲ

余括
な^{不折而}て石よ^{不折而}塚も実もあるに山楳

鞆旅花^{二句}

日
古寺や菜飯不恥地^{マウダ}さくく^{マウダ}羅

日
島田^員いそ^員百^員ハ^員ま^員け^員き^員山さくく^員ら

首途

代蚕
片^{マウダ}渡さ^{マウダ}ハ山田乃楳三十里

箱根^{マウダ}

日
吾尾呂乃さき^{マウダ}ハ^{マウダ}少飯^{マウダ}在^{マウダ}山さくく^{マウダ}

勢州白子不断櫻

日
ふ^{マカ}乃^{マカ}恙^{マカ}に^{マカ}け^{マカ}き^{マカ}ぞも^{マカ}俵^{マカ}ぬ^{マカ}楳^{マカ}卦^{マカ}

洛陽清水寺

余括
此地主^上ハ二階^上へ^上あ^上の^上馬^上楳^上の^上肌^上

建仁寺

日
一群乃木^下ア^下り^下も^下寄^下を^下山楳^下

下野國岩船山

日 兎山の存一きよらー山 楳

信濃路くーしー侍道

日 雪を脱て回もなき雪ハ楳 引

東叡山

蝶の使 やほさくーいづき使僧ハ明六口

渋谷

錦のきれ ちよとむいおぢれ楳ハ咲たのら

千駄谷

花船 嵯峨よりハ第ふ性也 菽 楳

永田馬場山王社あり

余積 山王乃楳てハあり 松の亭

淺草寺

日 生さ記ハ手本ふまされ 山さく

岩家へちしめをきて

日 多尔召ハ津の船風をナギつさく

日 伊皿子のふまのハありぬ山 楳

日 付使者がひて燈一間大 楳

沙那王丸僧正坊の腕立敷圖

日 鞍ふて色油所ハありぬ山さく

題 備後三郎

日 臣よりて操きけく入わらん

文臺銘

日 丸きより中ふ四隅乃接哉

二箇のるハ角豆の山接 晋子

架の園 二すむれぢぢららるる 近の山さるる

桃

代三蚕 桃咲や田舎をのまひよい生れ

丙午月次 借協のまいてをさほるをれを

余福 千尋小糸をらうりもく徳花

日 白桃や平ハをのの顔新美

題 一うす

桃の齡 老も解日本一乃志の系

余福 新よくと角舎夜や岸れを

日 堀河の桃此梢や車牛

文蓬萊 大井川を乃とつくを石一ツ

勢州宮川 垢離小屋乃きよらと

代三蚕 帯せは志心せよ 何系小屋

甲物いさえ

春夏賦 去らるる油ゆりこむ荒鶺宿

高輪

余稿

床髪小海見る志向くも妙ふ

寺島のありの白巖の社の
社々宗元へまゝく

日

白桃李あややと宮北は連

題硯

春の旅

濡枕やよく小すくもる有破海

梨の因

雛買不出都を名残二日月

日

帯ひなハ伊勢物語 信入うれ

余稿

ハツ子折屏風もあまぬ家の雛

日

ひなの歌ささうら 重江の歌

日

枕立ハ小雛ハ独る秋う南

雛

日

ひな買やけくぐも爪をやつて

日

乃よ東筑波も二辨辨あけ雛

日

佛とと腹ハ望りあもくも雛

日

ほくく子田毎とて照やあけ雛

日

くろ雛ハ枝散翠巻とまき足まの歌

日

残ひれやうらぬ乃遊の朝きみ

日

雛照や又辰長屋ハまのま

日

ひなの裾うらろ鏡や金屏風

日

岩本姑百味をひな乃まき

日

雪国ハ雛乃素足懐光うら

日

雪国ハ雛乃素足懐光うら

雞合 日 抱^マ付て蹴^サ爪^サ志^サら^ク秩^サ計

汐干 粟月次 汐干^ヲ中^ヲ烟^ヲる^{モノ}の^ス六^留士^ヲり

日 夕干^ヲき^れて^自扱^ノ海^ノ水

衆の園 志^ヲひ^引遠^山多^ノ大^井川

余指 夕^日を^未く^る夕^日の^むち^りり^ん

日 神^ト君^夕干^一日^新地^之ぬ

日 扱^ノ干^小尻^とめ^る夕^日也^もり

遊高輪

日 汐干^ヲや^うを^氣と^下從^キ所

夕干^ヲ三日^ヲ輪^ノ海^中干^カこ^ノイ
茶^店の^末と^さし^へる^代り^て

日 今日^を海^木の^池や^汐干^臺

日 元^船也^志も^く垣^乃大^汐干

日 汐^干と^り鶴^も日^の之^池也^く

江戸^出ハ^ハ王^子の^背

別霜 暮^及賦 袴^地を^扱も^く扱^やわ^れぬ

郡内領

蠶 日 火^をく^ぬ蚕^の窓^や片^くと^髪

惠比須西贊

櫻網 余指 非^代り^の太^刀ハ^左と^さく^く網

勢州安濃津

鱒

代々

海鏡の尺より不足津乃長と

筋

余宿

松とろり一之樹を乃る系や鬼の筋

きんこ通 本山乃直路

妻及賦

千丈の袖を待針 薊の可筋

猿橋 橋上より里水底迄六拾六尋兩岸須弥を組

堇

日

耳搔乃手小紅粉さすや 岩堇

薩埵山

代々

降よと寸あくく薩埵のつがすれ

山吹

余宿

山吹や勇をとり楫乃すり遠く

四時額銘 四季に白あれハ中あり黄砂にて掛へくすと

中央ハ是やまよまきのあり 後

宇治

代々

山吹や寺石垣の名を後代平

身延七面山 長く産後乃ちのいなり

躑躅

妻及賦

ほ見の深山後乃 物たり

伊勢参宮

代々

片の皆鶏冠の物 井路山

藤

余宿

面公より乃月うれ下王 岩

共宿

藤より 岩小垢たより 物 朗

代香 棚藪や横うらたての天乃川

身延本堂

妻威 うちあそび珠敷ちのつまや大あそび

雌雄風 乃片いの上よ誰とハ茶屋乃藪

佃島

余福 酒ハ船ふるは取よやれ藪の棚

黄人ハ髪斗切きり

日 尺ゆやそよし藪のき草物

丈山尺樹寸馬豆人

薬の園 尺藪の人ハ豆ある草ハれ

雑春

余福

題次信

矢面ハ立あそぶ初湯入

題静

日 ちと板や徳太刀娘むすひさけ

日 傀儡師徳磨より波後哉

日 伊勢の歌を分て定りよ板着和布

文芸業 春の江や四己百よせそく言仙貝

妻の序 妻ハ四城隅とる影や牛さくらり

勢州山田

余福 山を回舟笠の極ゆく妻の人

代香

棚板や横うらまての天乃川

身延本堂

妻五賦

ふらふらと珠敷ちのつまや大あくら明休

雌雄風

ふらふらの上は誰とハ茶屋乃板

佃島

余福

酒ハ船ふき取よやれ板の棚

黄人ハ髪斗切まらぬ

日

尺がーやまよし板のき布物

丈山尺樹寸馬豆人

薬の筒

尺板の人ハ豆ある糸入れ

夏之部

更衣 余拵

税つりと富士ハあつと雪衣う
卯月朔日日坂を廻て

妻屋賦

代々蚕

丙午月次

卯花

余拵

日

他村

婿もて銭小杖の中綿ぬけ糸
更衣にももへハ頂ノ乃枯木哉
初袷ももへハ橋北新あつと
うねももへハ葎戸の立合
卯の花也直を字かむあんを上
妻月此縁ももへハ代聖のやとりを
市姫をみのみ崎山卯木原

赤む月

妻屋賦

代々蚕

余拵

新樹

日

宇治橋

小野小町画贊

卯の志や人心か芽
京入音子の如ハ幕乃盛介
といへも折まふれ
四糸うを卯の花月夜を結連
うねももへハと出と鬼う縁
片よかめ雪のさほさくを卯木
木賊より新樹音あき月夜か

茂

代々蚕

日

姫宮ハ壁と橋との茂里かな
陰よのむ射礼一射をけり

藤井寺

余格 南子頼め殿の下間批枚乃柄

鈴森

若葉 七束 多つゝ今 苦を ハズ 全きく 送わつゝ

大坂川口お恙ーて

代委 凡為素角力にけてハも ハズ ちう船

東武越中島ハ久一き名ありしゆく
る 稀ナリナリトミルコ人の僕事
あり 相與又島上よりナリぬ相爲乃
高社云々和の古き新様 芳のろりき
舟のりうい 捨りきあめふあひく
とやとのひく 日星りあめふあひく
流光平一梅きあて各帰 余格

牡丹

友若葉 新あつゝハ被別わりて乃 石あてを

金島 牡丹ハハ廣きの上よ町乃 種

代委 生貝乃耳をちちちち牡丹ハハ

分外 大将キイの一辰 ちちちち人 哉

厚月次 初ら 貝ハ秋の月にゆ希し牡丹ハ

余格 鯨の目ふ便よ乃ゆる牡丹ハ

月 大文字とちちちせー百おぼくむ哉

月 襖も月ハちちのち多 白わく人

和入句ッ

月 我乃碁の何けハ勝ちと公牡丹

藤井寺

南子ねめ 殿の下 間 枇杷乃柄

鈴森

余格

若葉

七泉

ふつら今 苦ハズを 全きく まわら

大坂川口お美一にて

代委

凡そ系 角力にてハ 多し ちう船

東武越中島ハ久一き名あらしゆく
る 稀ホリチ一をみるこ人の僕事
多し 相與又島上よりチね稲高乃
高社石と示の古き新橋 芦のろよき
舟のりゆい 捨りきあしめふあひく
とウとのひく 日量りねも又まは乃
派光平 梅まらめて各帰 余格

波と見て 越乃子 白牡丹

水具て 喰く 婆あつく 白あて

笑人へりて

余箱 頼るる 皇國乃由 一わく 入かお

布袋画賛

日 傘破 新牡丹ハ明乃ちり

題貝杓子

梅菊 ありをやく 牡丹ちりり 貝杓子

杜若 衣久 名隈 戸文珠 四郎よかき 川をこ

蟹圖

子規

余箱

ハ橋 戎 笑く 小目もとく 杜若

日 梟の目 少を 踏きり ねく とき

日 大子 玉を 見る いろ ます 又 保く とき

日 将門ハ 寝る 時を かり ねく とき

日 遠く 近く 松原 河原 けり とき

日 文ハ 結 どり 落して くの 保あき 頃

日 玉川の 乳房 肥く かり ねく とき

日 起 務く 家来ハ いろ ねく とき

日 扱を いろ 片身 買ふ 魚 池ハ

日 地 佩の まく ねく 扱く とき

代々

跡は冬の一日保登善慈願

洛河東即興

孝貞

大佛の撞木そめりりあ

下野国結城の地ハツノ一七郎朝光の領にて桑華をあらりしと尚松竹つまりく又光御残す

他村

一毛又五十八箇寺わくま

其柱

扱鳴弘法歩り別初宜

販婦よかきう寸元女子の業をとりりちうふを皇都乃風俗とす中に

代々

名男糊め一亭用とく集

日

多の如京れ狂云杜定

上

十四

日 父子似ぬ亭より之助おとす

借書 望まわ 我一言とほむとて

余稿 杜鵑を弁ふ何乃 油煙

日 宿一人新町二人わく

日 青原又裏門ハナ一ほく

待乳山

日 大根の勝を^潜おや時

日 短さよ勢田中鴻海と

箱根山小地獄

七泉 うひと此世うせめ蜀魂

代登 端は冬の一日 保登書

洛河東即興

孝友 大佛の撞木

下野国結城の地ハツツヘ七郎朝光の領にて 藤華とありり 尚松舟 さまりく 光柳残す

他村 一毛又四十八箇寺

其柱 扱ひ弘法歩り 別給

販婦よかきう寸九女子の業をとり ちうふを 皇都乃風俗とす中に

代登 名男 糊め一亭

日 みる如也京れ狂云 杜

題詞一中

日 けくあり 家も十位ありきり

雲の誓 山伏ハ寅子帯せし人わねて記文

丙午月次 けくや辻梯ふりけくこの霍公鳥

上総嫺崎市長衛鳴呼忠哉
琴くきけりけりくま市之忠記 音子

栗の園 ごとときけ又 時名 利兵衛傳

日 ち中れ見猿ふもや けくき寸

余宿 利髪の亦存く とありきき

画圖

日 子規たのきつるかきや鐘道の伝

鴈鳩

日 狗禱も表し 酌新し人の名

箱根 二十五菩薩弘法大師の
彫エしつらひなり

七泉 山ハきり石ハ小刀のん去り

灌佛

丙午月次 灌佛や袴子もやめて 墨 衣

余宿 灌佛は和日和一日 衣彼の屋根

日 灌佛や眼と雪ハ大 禿

淀

代々蚕 灌佛の百會や淀ハ谷 谷

余宿 初鯉雲間を渡り 月乃新

鯉

目に入るとよい子とく——初堅魚

移居

佛壇の戸をまぐろを初うを

焼き紙何もの消矢たる——鯉

昔むと六橋のるめ付初松魚

葛の葉乃うらうをあれ初鯉

金城と遊水長く五代万代とも又流るるんを瀬
うらうはあつのもちて民は言傳ふあひぬ一簣の
功積こそ万銭をたかみ幸ひる

去の中あつらうを乃えうを

筍根

山後ハ一里ちうらきう——鯉

日本武醒の并みうらうを

あつけもまがう活てうらうを

題工藤祐経

讀つくと通る者付鯉乃ひうらうを

羽黒

梅梅乃羽黒切へ王やあ梅ゆへ

非山の棧表はうらうを芝 莚

あつてあ清れは古きお梅ゆへ

紫うらう物まがうあ梅花柚ゆへ

結城我尚の亭小臨て

蝙蝠 三雅集
葵祭 幸友伝
罌粟花 架の園
花柚 二の竹

目に入るとよい子とく——初堅魚

移居

佛壇の戸をまぐろを初らるを

娘も紙何もの消矢とらる——鰯

代々蚕 昔むと六橋のるめけ初松魚

梨の因 葛の葉乃うらぶをあれ初鰯

金城を遊ぶ水は長く五代とるは流るる入を瀆す
うらぶは海ありのものおちて民は昔海よりあひぬ一簣の
功積るる万銭をたらしむ幸い喜ひる

卯赤月 去の沖あつらふを及光らる

筍根

筍枕 山海ハ一里ちうらき——鰯

他村

陰何きいとくと花袖乃中やうり

貴家へ好くととされて

余宿

少き家の忌袖にかぶる時き介

笋

日

くけのこや横へはゆめ川の果

赤澤山

日

筍や眼野の負^{ミテ}多あしぬ顔

若楓

赤坂

志^統あつるあし上り木條わりの楓

古人の行御り更あしくひたすうあつる
さうかかみそをうぬ様は佳安を
企てかハ長明の省つきもあし
此凡とくちのまきよあつる

櫻實

他村

まのちれ系又包むのり様乃実

厚朴花

赤坂

袖よ玉何くくけても朴乃美

身延 宝藏の真骨元政の孫以成
おまひかて

題道成寺謡

櫻榴花

余宿

道成ハ元ノ方控あゆろの忌

題鑄物 野州佐野
之土産

注文の種をのここめ櫻榴の花

菖蒲

余宿

鶺鴒ハ平て毛糸ハ斬のあやめ哉

日

黒髪ハ緞形打く菖蒲うれ

日

高祖あそけ 三尺乃 斬何やめ

ニまハアとて瑞午とあやめ芦の湯は
あひあひあつるあつるあつるあつる

厚朴花

庚辰賦

身延宝藏の真骨元政の孫以故
おもしろく出て

袖の玉何くくけても 朴乃美

題道成寺謠

椋桐花

命格

道成ハ元ノ方楚志ゆるの念

題鑄物野州佐野之土産

他村

注文の種をのここめ 椋桐の花

菖蒲

余格

鶺鴒ハ平て毛糸ハ斬のあやめ哉

旧

黒髪ハ緞形 打と菖蒲の乳

旧

高祖ハ色け 三尺乃 斬何やめ

ニまハアミとて瑞午とありぬ 芦の湯に
匂いありあうくくふのあやハ浴衣と見え

七来 人も香よきつとあびて嘗て

西月次 白くや湯舟又いあやめ新

代々 蕨の根乃老ときめんはあやめ

余積 丹頂乃菜が浅茅のやめ州

日 松おしとあふそあふ花何や免

日 勝負樹の落ぬハ風乃雀よめ

競馬 日 子お絵よ思ふ圍あり初 幟

楠四氏の一子におく

日 南あらし男ハ何ものあり

西月次 初幟乃よ我夫提婆品

| | | | | | | | | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------|--------------|---------------|-------------|--------------|----|
| 五月雨 | 帷子 | 柏餅 | 印地打 | かふと | 架の岡 | 代々 | 余積 | 日 | 日 | 日 |
| 日 | 日 | 日 | 余積 | 余積 | 余積 | 余積 | 余積 | 余積 | 余積 | 余積 |
| さみよき余はれあま抄小舟 | 帷子耳墨をこぼすや免守 | 鏝あらし女ハいふ柏もら | 糸柏の餅を中より 國隣 | 贈もさハ親の心を言地赤 | 賣くときふ三升を付おかめとカ | 十二支の頭のありや子持篇 | 幟絵や風ハ風巾屋のうハ乃雪 | 抱ききてるおしりき幟哉 | 北江戸のき梢とハおれりお | |

己月酉や春屋一日響の足

其柱 五つうぬや天狗の石ハ燈乃種

享保十四己酉の三月下旬象
赤武うまはそも言柿の意(ふふり)

五月雨や海哉ふま肉の象棧友

聖像開會にまつりて

沖松や入梅の晴宵此市表具

岡崎艸菴 元禄十五壬午年

一對のそよめ軸ハ二ツとあるれ去の
友沾徳予と花浴はろりて一本乃
あやみあはるる是はすりてひら
翰墨の場はほろりてひらき
果はりりて視潤ひぬ

入梅 日

余拈

今年竹

二の竹

早苗

余拈

お願ふ風を向てこりこり竹

約瓶のくかつへぬ尾の子苗亦

早乙女や^莫ほをかりの世は好ち

大文字のかくまてあき^退は田植外

初名とハあつて巻分り田植笠

伊豆二句

柳の葉を^{ナギ}あよよ田植の水鏡

奥伊豆^助此田植き^助希く男海士

野州浦釜原辨財天^{高見會}

他村 抄く^己田^己の刻乃 檜茶哉

於伏陽欣淨寺即興

代々 夜のなき下知を交も舟運ひ苗

鳥羽田

百合

山城の橋を渡りや苗配
博多より帯とまゝの山乃百合結露
まゝくもやふとの山乃百合結露

日光裏見瀧

紫陽花

他村
あちとわのお刺いふ月わら帯
いゝ襟乃籠ひゆる深山ゆ里
題采女

藻花

藻荇

鶉

水雞

螢

腐てを敷きと花の赤く藻
鯉の吹水とをかり藻刈舟
鶉とわと子の色くち鶉舟
宿借の足もと及せよ鶉炬
白りる不破乃梳蒜のくあふ
雞のみ起きと鶉うれ
辻智籠乃戸あきを起す水鶏哉
迷ひ子と川向り
豆腐屋もあふ才一考うあ
殺生石

他村

厄女乃石太もひとつ飛ちる

此石の舟穂津さくらとあるもまく
出府せしや

代々

草取く敷うくちり川

余積

澤螢一切捨れ埃 蚊

茶師堂へまつりて

日

昔螢目茶貝のひりり

蚊

日

蚊も去りてちりて新瑞のふみ

日

川越やまきひぬらふづつ蚊

布袋函賛

日

般若詰乃蚊もあまらぬふり

日

蚊柱小十三言 多武の峰

佐野舟橋

他村

橋乃名のあま流き蚊ハ柱

余積

大裾屑ハ長柄ときけと蚊を

高野山

日

蚊老火や一敷のあま 女人堂

代々

三尺の劔なまきけやかやり影

下野国出流山観音堂即真

他村

帳片にまきけあま 鬨け火層のれ

伏見 寝波へまきけあま

蝸牛

代々蚕
早く暮船をすれしり馳走政屋
宇賀神の汝もたのむやうくつり

京止宿

まゝ賦
やどり木や宿の櫻をかくしり

武の玉川

鮎

余指

鮎ハ淵の一磨^{トキ}ぬ乃光う那

小鱒

日

海乃徳光や夜の小鱒賣

日
それ餘ハ目の前日和江戸並れ

代々蚕

小槌よりこゝろ守新鱒が光か

江西山房

鮎

七泉

西年月次

山のほとけ杖餘やむより鐘乃声

曾我石塔

離小か〜宵と旦アシタの鮎が壓カシ

題景清

代々蚕

我^アてて腕の序よきよ柱能

葛輪

麥

日

麦わすや茶屋ハ河内の帯如先

茄子

余指

かづる糸ハさのの意を初茄子

代々蚕

猫あつむ百目も配れ初るすい

越瓜

余指

あろ瓜も粕カスよま任のせよ松に坂

神輿洗

西平月次 炬乃洗先 涼し宵神輿
余宿 焚くきぬの庭や神輿乃水あびせ

旅行

氷室

日 消きえもせむ氷室へちくも老る様
日 氷室守魚も一おとる室外
西平月次 嘗ハ立出〜〜〜ハひひ後也

余宿

蟬

日 望固あ新顔をきけん氷餅
日 奏高き蟬乃夕や的のうら
日 樹陰蟬
日 打あふかぎ〜〜〜蟬乃奈非

黄檗山

代香 今以笛あき一流蟬乃あこ

大名小路

余宿 夕蟬小砂利の宵マけや若松抄
繁の園 濡悴や命ハ奏の暮るまで

牛

蠅

袷園會

余宿 汚き尾も惜くは蠅の拂子引
日 素戔鳥の神輿枝燵や碎を〜ひ
日 名ふむ〜長刀蟬やひ〜山
日 中橋の袷園林や極木賣

行くその山よりしてゆ修吉月
七日そ風乃ま杯きに久下田會

他村 景亦あけ大路ハさくは二階うさ

結城遊佐亭

蓮

余宿 河くま立門又我之乃後うま

日 梅ありそそいれや蓮の山より

其柱 出まひハ沼より意乃蓮外

余宿 草多急や人も教ぬ奇森好

代々香 蓮葉や汀を我の山むらうま

書顔

日 杖とくく暮ひる天のむら破
屋敷や足より角力 松の陰

六月十九日聖州廣沼古風山光泰寺
芭蕉雪中あ居士の研を拜して

他村 ひさのけや我も乳節の玉を伏

代々香 登か不や歸ふらむ心砂乃果

夕顔

余宿 夕の月やそほ扇さくもな

澤瀉

橋南 沢瀉ふらぬの石あり菰著傷

余宿 澤瀉や一條跡お水の隈

日 おもくこのや棠標乃尻をどまら

三圍乃苗彫くく多ハ刀柄平

日 鳥居のを抱に沢瀉 あり乃

絲瓜花

日 顔かせと丑糸と 意ハ花糸凡

行くその山よりしてゆ修吉月
七日そ風乃ま杯きに久下田會

他村

系あゆ大路ハ志々ハ二階ハ

結城遊佐亭

余宿

河と立門又扱定乃院の

蓮

日

梅ありそそ山如蓮の山より

其杜

出まひハ沼より志乃蓮外

余宿

草々急や人も教ぬ奇森好

代々香

蓮葉や汀を我の山むら

書顔

余宿

杖とぐり暮ひる天のむら

日

屋敷や足り角力松の陰

凌霄花 三雅集

凌霄や人の心總さうけまを

合歡花 栗む

合歡は舞護あまを今秋乃を

水鳥巢 余稻

楫をりてめくく鴨乃巢友達

地ノ踏もといふこゝ也

田取 系致達

廣き地をあやまる足や田を取

鹿沼

麻 他村

麻の門や雲井の空何より麻

蘭刈 丙午月次

巧持名蘭ハ婆羅門の一ハ髻

會于四谷日暮欲避暑南海酌酢未歸家

瓜 余稻

瓜の門出乃枕四谷 瓜

角豆 日

玉いまこかつれもや守初角豆

代三香

藍瓶の戸をあけおのや物さる

余稻

三味線よ一筋はぬ角豆哉

日

武乃果の丸を極の盛きけ

狂言舞

夏草 日

夏草を勅う去乃車を

旅懐

日

夏草のどろりと病よりるの息

室八島

他村

竹の子乃踏分笛や茶いされ

暑

罕月次

樞マシの糸れ夕を栢を暑少哉
約込て貝の舌出さあひき哉

大磯虎石

い男不ふ本了暑しきく石
王子

山鳥遊を蹴りりりつき哉

刻汐の棹哉りりや夕すみ

未ひ子をこり子もあまき涼

魚乃浮氷てきなり 椽すく哉

孕人と門回少涼心女う那

納涼

菊の塵

命栢

日

日

暑

罕月次

樞マシの糸れ夕を栢を暑少哉
約込て貝の舌出さあひき哉

大磯虎石

い男不ふ本了暑しきく石
王子

山鳥遊を蹴りりりつき哉

刻汐の棹哉りりや夕すみ

未ひ子をこり子もあまき涼

魚乃浮氷てきなり 椽すく哉

孕人と門回少涼心女う那

日

日

日

栢有

秀儀路ま

三月箱

京涼 神輿栢

代蚕

大坂川口 天満宮御旅所

日

神松乃涼 一や船の釘栢子

裸ハカ栢

暑

四年月次

擬モ三の糸ね夕を栢を暑由哉

命宿

約込て貝の舌出さあひき哉

大磯虎石

日

い男石ふ本了暑引く石

王子

日

山鳥流を蹴りり何つき哉

大坂涼三句

余稿

日

涼をそそぐえは次西涼——橋片
牛ももむ車ハス〜〜〜
夏と〜〜涼〜ふ名ち——橋の敷

西國橋

祭の園

新大橋舟中作

余稿

涼〜きやと〜寸見〜ハ鳥兜

三昧

らま

小橋〜〜指汐す〜〜菱

日

鑑

九つ〜今の名博多あの中平その元
ち〜肆多〜む〜さ〜のハ三十印
餘也 程〜〜も〜め〜の〜と
は〜〜秋園主人〜水〜程〜
〜〜一〜裁入〜影仙
さ〜酒仙〜
此麴佳造〜暑氣を驅出す味も
有り〜我亦〜讚〜曰ク
涼——目為ハ布 橋 鼓

清水

一番雜

逢坂ハ我ふる〜清水水哉

沾徳翁ハ霍公が笠弁〜とす
子葉子又黄葉と踏〜り〜す
其間互々寄影その別後乃辞集て
小策成ル香山の晨雜載鳴殘月没
を〜て標題〜を〜世利行人出語の
河〜歌〜
〜〜其所を

扇

余稿

夜と暮れ蓄麦生ゆへる底清

日

傾城ふきまきそへあきあき

日

櫻ふかりき扇そ風をらうら

丙午月次

眠く杖ハ扇の骨城眼鏡うぬ

梨の園

為す又珍ふ扇乃盛う南

日

切良ハ年うらまめ侍扇の奈

日

二本めも其角こまうぬ何う

日

喜尺乃扇をふとを富士おろ

余稿

何う人扇を拾ひて立身乃幸あふ

余稿

あちこの骨不出世何り深あふ

宇都宮之産

團扇

他村

あちのゆふ人ハ妙あう

余稿

何うと名也扉ハあつ

掛香

代々蚕

掛香ハ蔓のあぢい

日傘

余稿

日と夏や傘下閣魚沈む

驛路

一夜酒

日

耳ハ入る鈴をあつ

心太

柳こま

とろ人み下ゆく風や

余稿

みちのこことねあひ

日

松木少色着到ハ前

日本橋上

日 玉川ハふくつるきけり裂きぬ

代々 穿れる小風を波にまぎらる人

虫干 梨の園 虫干や一多き海王うつり山

余宿 山ありや花も春あはる鹿ひ猫

白雨 日 夕々もちや家来飛ぶ正殿屋の中

延波の金まき

日 申さきもちや男世帯此概乃音

御被 日 御被ちけは黒木のうせ成洗髪

丙午月次 漕あてふる出汐を江戸のみとき川

雑夏

七泉

毛根うへて鷹のふ龜丸かへ尺

洛松陰社亭 明人そく猿乃辞く矢見櫓

妻原賦 予の一字はるさやよとをまは

他村 幣きよとわらさき猿ノ下初草

日光中禪寺の湖水と月朔日々り

日 歩堅固て鹿沼初定そくや舳舳不

黒髪山

芦湯此一たびもやいとをわたり人そを湯と
魂は後よりたすけりてほくまそはるぬ
おなごもちたれりてそつてさる

日本橋上

日 玉川ハハらつるきけり裂きぬ

代々蚕 穿れり小風を波にぞとるらん

虫干

梨の園 虫干や一尋通里うつり山

余宿

しりりや花を考ある窟トひ猫

白雨

日 夕々もや春来飛らむ故屋の中

巡波の音もく

日 申すもたらや男世帯に概乃音

御被

日 御被もは黒木のらせ紙洗髪

丙午月次

漕あてなる出汐を江戸のみそき川

雑夏

七泉

毛垢うへて鷹も小亀九妙く尺

浴松陰社岸

妻及賊

明人そく猿乃辞く矢見櫓

予小一字詠はるきとよと空まは
いあこかくきり

他村 幣きよとわらをき猿下初茸

日光中禅寺の湖水と月朔日と

日 舟堅固て鹿沼初定そく舟小

黒髪山

月 髪不敷る考の夏限山修らる

男体山

月 夏帯やまゝ人と男体波山つら

狐圖

余指 みーの和や我ハ化くとおも

三子山 曾我ハ之と楊梅知行よ

牧笛贊

余指 夏柳ふいて闇をま

花於磐 流るるやあつても立次夜乃百

醫の雷不滅きる終年

余指 一減て唱 後とめよ夏乃云

小田原 泊里今やかく

七泉 ちる波の拾ひ鯨や夏くら

余指 下総を腋毛やおよぎ小屋

月 ぬき月や船向を思ふ極の思

日光の求めてお招す人きの美山幸イ
麻沼より其る七里と字より

他村 ぬき月の空をまめく



Blank, aged, textured paper on the left side of the spread, showing signs of wear and discoloration.

Blank, aged, textured paper in the center gutter area, showing horizontal creases and some foxing.

Right page of the book, containing faint bleed-through text from the reverse side. The page is framed by a black border.



新

〇



140

P

共

